

まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>



124号
2010年9月27日

ときわ台の景観を守る会
ときわ台まちづくり委員会
代表 鈴木博之 近藤洋子
事務局 島田晴子 tel・fax 3960-3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 藤和マンション行政訴訟

第9回口頭弁論が9月10日(金)11時半に522号法廷でありました。

8月4日付けで高裁へ控訴した分は、11月1日(月)午後1時45分～812号法廷となりました。

小泉元総理の規制緩和のせいで、建築確認が民間に任された結果、建物が完成してしまえば、民間機関は責任を取らないし、是正命令を出すべき監督庁(この場合板橋区)に義務付け訴訟をしていなければ、不法な建築でも責任追及ができないということが判明したのです。

こんな非常識がまかり通っている国って日本だけなのでしょうか。

○ 都市建設委員会

8月26日(木)午後、常盤台住民の陳情の審議があった。

板橋区の答弁が変化してきた理由についてY委員の質問に、常盤台の住民の活動が元で「景観計画」策定委員からも要請があり、「板橋区としても」時代の要請に従った、と区側が説明。つい「板橋区といえど」と言ったのかと思ってしまった。私たちの運動が少しずつ評価されてきたのは嬉しいけれど問題は解決されてはいない。

この窮状を何とかしてという第一項は4対4、委員長判断で採決ではなく継続となってしまった。高さ制限条例を、という第二項もあっさり継続。継続というからには、次の審議までに進歩が見えなければ意味はない。

隣の上板橋南口再開発問題は、やっと抜本の見直しとなり、9月7日に話し合いが新しく始まるそうだ。南口の人話では、完全撤回ではないので、まだ不安とのこと。お互いに6年・7年と言う長期の運動で、継続することの大変さを嘆きあった。

○ 写真展予告

5月のセピア色の写真展に引き続き、昔(といっても昭和四十年代)の常盤台の街並みを中心とした写真展を予定しています。古い写真がありましたらご提供ください。

○ 第2回景観まちづくり検討会

9月5日(日)10時 常盤台集会所で24名参加の検討会が行われました。東京大学清水亮研究室、龍谷大学生、千葉大生が参加。外部が関心を寄せているので、住民の参加がもっと欲しいと思いました。

板橋区の計画では、来年指定される景観形成重点地区は自然中心の赤塚と石神井の二つだが、常盤台と加賀の二つが市街地の候補として検討会を進めています。

常盤台では既に東京都の条例による景観ガイドラインができていますが、法的拘束力がないなど、問題が無いわけではありません。平気で地元の要請を無視する人たちがいる以上、ガイドラインのステップアップは必要です。常盤台にとって一番良い方法を模索し、景観法自体を知るための勉強会を下記の様に企画しました。参加を歓迎します。

10月1日(金)夜7時～9時

於 「ギャラリー服部」

なお、第3回「検討会」は

10月3日(日)10時～

於 「常盤台集会所」です。

あるといいな

* 駅前小ホール

多目的の百人ぐらい収容のホールがあったら、良質の映画を上演したり、講演会やミニコンサートが聞けたり、会議にも使えたり、ピアノやバレーの発表会にも便利、なんていうのはいかが？

* 植えたい樹木

香り・色・形の良い花が咲き、美味しい実がたくさんなり、病気や害虫に強く、できれば常緑の木で日陰でも大丈夫な木、ってありませんかね？

* 便利屋さん

今は必要ないのですが、もっと年取ったとき、御用聞きに来てくれて、配達もしてくれて、ちょっと高いところのものを取ったり、電球の付け替えなんか頼める親切な便利屋さんが、街に一人でもいるといいですね。

* 外に熱風を出さない冷房機

ひどい暑さでした。室内は冷房しても、外の室外機からは熱風が吹き出していて、ヒートアイランド現象の一因になっています。環境に関心のある人は、冷房を入れるのが気が引けるそうです。自分が涼しくても地球全体に悪影響を及ぼしているわけですから。科学がこんなに進歩しているのですから、熱風の出ない空調の発明、または出て来る熱風を電気に変える、などの工夫はできないのでしょうか。

常盤台の格差

家族のあり方自体の変化が、家の規模の変化をもたらししていることを以前指摘しました。戦前の格差はかなり平均化されました。

今また大きな社会変化として少子高齢化の時代になってきています。こういう変化が常盤台のような住宅地にどんな影響を与えるのか、不安と興味を同時に感じます。

良い住宅地とはどういうものか、思いのままに挙げてみると、子供が人間らしく育つ所、年寄りが安心して住める所、友達がたくさんいる所、緑が多く四季それぞれの花が楽しめる所、窓を開ければ澄んだ風が入り、鳥の声が聞こえる所、新鮮で安い食料品の店、センスのよい店がある所、などなど……

いずれにしろ、いつ迄もこの街に住んでいたい、と思うような所でなければなりません。常盤台の中で、また外辺で、格差の問題はいつの世にもありますが、敷地が広ければ美しい緑も多いことになり、昔のどっしりとした木造住宅にはかけがえのない懐かしさがあります。この街はやはり、ゆとりがあるから美しく、たとえ細分化しても、ゆとりある住み方は工夫次第で可能なのではないのでしょうか。

七十年余りが経ち、分譲当時の建物も少なくなりましたが、良いところは最大限残し、醜いところを改善して、訪れた人たちもほっとするようなゆとり（精神的にも、ある程度は物質的にも）のある街であつたらと思うのですが、皆さんはどう思われますか。

H・S

常盤台公園のはなづくり

ダリアが一株盗難に会いました。なんともはや……皇帝ダリアの方は三株ともすくすくと伸びています。まだまだ背が高くなるので、見上げてびっくりしないでください。

最近ロータリーまで手が回らないのですが、お祭りに合わせてつつじの植え込みの雑草だけ取りました。植え込みにもゴミやビン・缶の類を投げ込むのは、どうも日本民族の誇るべき特性のようです。

初雪力ズラがなかなかきれいです。公園の話題ではありませんが、プロムナードに面したSさんの話では、八月の日盛りだというのに、区からの業者が並木の剪定にかかったので、これから木陰が大切だというのに、どうして剪定するのかと抗議して、秋まで延期してもらったとのこと。

年々肌を刺すような太陽光線になってきています。オゾンホールをぬけて来る強い殺人的な光をじかに浴びると、ガンの発生率も高くなるはず。今年の異常気象では、枯れてしまった木が目につきました。樹木でさえ枯れてしまうような灼熱地獄がこのまま続くとしたら、本気になって人間は考え直さなくてはなりません。

そんな中で、大切な木陰を失わずに済んだのはSさんの勇気のお陰でした。

定例会十月九日（土）七時

「ギャラリイ服部」にて